

豚熱の苦難乗り  
越え再出発

# ひまわりポークフェア

## おいでん市場で17日

豊田市元宮町の産直施設「おいでん市場」で17日、とよたひまわりポークフェアが開催される。生産者の一人であるトヨタファーム（堤本町）の鋤柄雄一代表が直接キッチンカーで新ブランド豚「とよたひまわりポーク」を使った料理を店頭販売。購入者に特製エコバッグを限定先着2000個プレゼントする。鋤柄代表は「ひまわりポークのエサである市の花・ひまわりの種を地元の子どもたちが自ら育て、採取し、与えていく一連のストーリー」を市制70周年記念献立、おいでん市場のマルシェフェアでスター

いながらも、何とか操業再開に至った豊田市内の養豚農家と、秋葉町のフールド・ワンフーズ西日本事業部の協力で生まれ拡大した豚熱の被害に遭った。市の花「ひまわり」



「とよたひまわりポーク」の飼育する鋤柄代表＝豊田・堤本町で

別支援学校に今月、食材として使われる。鋤柄代表は「地域密着度の高い地産地消銘柄豚として、今後は食育活動にも取り組みたい」と話している。当日おいでん市場来店者にひまわりの種を無料配布する。夏の間育てて、花が枯れた後に採取した種を持参。店内に設置された黄色い専用ポストに入れると、その種を飼料としてとよたひまわりポークに与える。「子どもたちには今回の給食だけでなく、日ごろから食育や、地元農業への関心、地産地消に参加してもらいたい。こうした疑似的な農業参加を通じて次世代の農業の担い手育成につなげたい」と鋤柄代表は力を込める。

「とよたひまわりポーク」は、市内の小中学生から公募し、応募総数393点の中から前林中3年小田春嬉さんのデザインが採用された。ロゴマークのシールが貼られたパッケージのひまわりポークは現在、イオンスタイル豊田やイオン高橋店、マックスバリュ四郷店ほか、おいでん市場などで販売している。豊田市制70周年記念として市内の小中学校と特